

Media frenzy

マスメディアの暴走と科学

Nature Vol. 459(484)/28 May 2009

化石発見の誇大報道は、メディアの潜在的な危険性を浮き彫りにしている。

保存状態がきわめて良好な 4700 万年前の霊長類化石に関する論文が 5 月 19 日に発表された (<http://tinyurl.com/oycvo8> 参照)。ニュースは最初 *The Daily Mail* 紙にささやかに報じられたが、その後話が急に大きくなり、おびただしい数の報道がなされた。

通常、この論文 (J. L. Franzen *et al.* *PLoS ONE* 4, e5723; 2009) クラスの内容の場合、一部の霊長類化石ほどの論争は起こらない。今回ドイツのメッセル付近で発掘された新種の化石 *Darwinius masillae* は、同じ発掘現場から出土した他の霊長類化石 (ただし断片的な化石) と近縁関係にあると考えられる。断片化石はアダピス科という霊長類の絶滅種に属し、高等霊長類とヒトが含まれる直鼻猿亜目よりも、キツネザルなどが含まれる原猿亜目に近い。したがって、今回の新種化石もヒトの祖先種とはほとんど関係がないと見られる。

実際、論文の中で著者は、*D. masillae* は「のちに類人猿霊長類へと進化する基幹グループに属している可能性はあるものの、その点を本論文で主張するつもりはなく、また *D. masillae* やアダピス科が類人猿だとも考えていない」と明確に述べている。さらに、この発見によって霊長類の進化に関する現在の考え方が変わる、と主張することも避けている。

ところが、今回の論文発表は通常と異なっていた。*PLoS ONE* 誌に投稿される前から、Atlantic (米国ニューヨーク) という制作会社が、この発見に関するテレビ用ドキュメンタリー番組と本の制作を進めていた。そして論文発表からわずか 1 週間後に、本が出版され、ドキュメンタリー番組が米国のヒストリーチャンネルと英国 BBC、ノルウェー NRK で放映された。

本のタイトルにもドキュメンタリー番組のタイトルにも「つながり (The Link)」という思わせぶりの言葉が使わ

れた。また、この化石が初めて正式発表されたニューヨークでの記者会見に伴うプレスリリースには、これまでの理解が一変するという主張が書かれていた。ヒストリーチャンネルのウェブサイトではこの化石が「人類の祖先」とされ、BBC のウェブサイトでは「人類の最も古い祖先」と説明されていた。

公平を期するために言うと、記者会見での著者の主張は、適切に慎重になされた。しかし著者は、ドキュメンタリー番組とマスメディアのキャンペーンに深く関与しており、大胆な不実表示との結びつきは否定できない。

もう 1 つ問題を投げかけたのは、論文発表が、記者会見と当初のマスコミ報道に間に合わなかった点である。そのため、研究チーム以外の科学者が研究内容を評価できず、ジャーナリストが研究についてバランスのとれた記事を書く環境も整っていなかった。

PLoS ONE 誌の編集者と査読者が、この論文について職務を果たさなかったわけではない。ただし、論文投稿時に時間的余裕がなくなっていたのは確かである。*Nature* でも、時々、テレビ用ドキュメンタリー番組と関連した論文の投稿の申込みを受けるようになって久しく、そうした申込みには通常、放送日が記載されている。*Nature* では、査読過程が損なわれる恐れがある場合、必ず論文を却下してきた。時間的余裕がないと、査読によって問題が表面化し、論文掲載が遅れたり不受理となっても、番組が予定通り放送されてしまう危険性があるからだ。

原則として、科学が、意欲に満ちあふれる報道機関と手を結ぶことを否定する理由はない。しかし実際には、そのような連携には相反する動機が生じ、その結果、科学をきちんと評価して伝達するという過程が、あっけなく崩れ去る危険性がある。この点は見逃してはならない。(菊川要 訳)